四日市市立西陵中学校　校長室だより

黎明

題字は、校歌（玄関掲額）より

令和４年
５月６日（金）

風薫る五月の空の下で

四月があわただしく過ぎ、いよいよ五月を迎えました。本日、一年生は部活動の仮登録期間を終えて正式入部となりました。

部活動を通しての専門的な技量の向上と共に、異年齢集団の中での人間形成に大きな期待を寄せております。自らの選択を貫き通せるよう願っています。

「確かな学力の定着」に向けて

さて、四月に実施された「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の各教科の調査問題をみると、**文章と写真・グラフ・図表等の資料を関連させて読み解く形式**で一筋縄にはいかないものも多くあります。

また、答そのものを問うのではなく、答に行き着くまでの考え方が問われたり、それを評価したりする力が求められたりもしており、**求められている学力観が大きく変化**していることが見て取れます。

こうした変化は入試にも影響を与え、**「筆者の意見を参考に、あなたの『○○』についての考え方を書きなさい。」**とか、**「…という本文の問いかけに対し、賛否いずれかの立場に立って意見を述べよ。」**等の問題も見られるようです。

五月は月末に中間テストも控えています。一人一人が授業を大切にし、自己目標を持って確かな学力が身に付くよう取り組んでまいりたいと思います。

以下、学校ＨＰの「日誌」に掲載した授業の様子を一部再掲します。

三年生理科では遺伝についての学習を進めていました。血液型の仕組みについて考えていると、「A型同士の両親からO型の子が生まれるのはなぜ？」という疑問が出されました。「問い」から「学び」が生まれ、深まっていくようすを感じました。

二年生社会では宗教改革についての学習していました。免罪符を「買う」「買わない」の立場に分かれて、理由や根拠をもとに話し合っていました。課題を自らに引き寄せて自分自身の問題としてとらえ考えることはとても大切なことだと思います。

一年生国語では「大根は大きな根？」という説明文を読んでいました。大根なのになぜ根ではないのでしょうか。焦点が当てられた「器官」という語句がこの大根の謎を論理的に読み解いていくために必要なカギの一つとなるような気がしました。

この「日誌」のタイトルは「問いから生まれる学び」としました。問いに真っ向から対峙して**理由や根拠を見つけようと論理的に考える**過程を大切にしていきたいと考えています。

読書と新聞活用のすゝめ

学力向上を進めていくためには、わからないことをそのままにすることはもちろんのこと、ネット検索で手早く解決を図ろうとする態度や考え方についても一考の余地があるのではないでしょうか。

幅広い読書の習慣は学力の下支えになるといわれており、学校図書館の一層の活用が進められています。また、図書の充実に加え、新聞を配架することも求められています。

本校では**新聞二紙を図書室のほか職員室前と各学年の教室前廊下ですぐ手に取れる環境**を作っています。授業においても資料として活用されることを願っています。

新聞には多くの写真やグラフ・図が論理的で実用的な文章とともに掲載されており、日常的に新聞を読むことは、情報を読み解く力を高めることにつながります。

こうした取組によって、社会に目を向け考えるきっかけが生まれ、フェイクニュースがまん延しているといわれる中で、必要な情報を取捨選択する力を高めていけたらと考えています。

授業において大切にしたいこと

授業において、意見が食い違うことは必ずあります。**異なる意見を「なるほど」「いいね！」と肯定的に受け止め、少数意見だからこそ大切にしてほしいと思います。そして、わからないことが大切にされ、そこから学びが始まること**を願っています。